

26 災害発生時、避難に二の足を踏む理由には何があるのか？

2011年3月11日の東日本大災害から今年で14年が経過しました。

携帯電話などから鳴り響く緊急地震速報のチャイムは、今も鮮明に当時の記憶を思い出させます。私たちは東日本大震災以降、熊本地震、北海道胆振東部地震、能登地震などによる震災や、令和元年東日本台風をはじめとする豪雨災害、土砂災害を経験してきました。しかし、携帯電話の緊急避難速報や、テレビから流れる津波警報などでも瞬時に避難行動を起こす人は少ないのではないのでしょうか？

このような心理は、「自分だけは大丈夫」、「この地域は大丈夫」と、リスクを低く見積もってしまう心理傾向である認知バイアスと呼ばれる心理状況が原因と言われています。認知バイアスのうち、避難を妨げる要因となる心理状況を正常性バイアスあるいは楽観性バイアスと呼びます。

東日本大震災の体験談を集めた書籍の中では、「自分だけは大丈夫」、「前回大丈夫だったから」などの心理が働いていたことがわかります。また、「近所のひとが避難しないから自分もしない」とか「避難所へ避難した後で他の人が家に戻るから自分も戻る」などの心理状況である同調性バイアスが働くことも言われており、これらの心理状況が災害発生時の避難に二の足を踏む理由にあたると思います。

東日本大震災では、津波による大きな被害がありました。その経験をした私たちでさえ、正常性、同調性のバイアスが働き、避難行動に二の足を踏んでしまうように感じます。

2024年1月1日に発生した能登地震では、NHKのアナウンサーが「高台へ逃げてください！」、「今すぐ避難！」など強い口調で連呼し、避難を呼びかけました。このような呼びかけは、日常から危険状態である非日常への切り替えのきっかけとなります。SNSには、「ちょっと怖い」「大げさだ」などと否定的な声もありましたが、「必死さがひしひしと伝わってきた」、「呼びかけのおかげで避難ができました」などの「実際避難を行うきっかけとなった」との声が多かったようです。

避難のきっかけは、周囲の状況変化とともに、「声掛け」が挙げられています。地域での防災訓練は地域内での声掛けをしやすい環境作りにもつながります。防災訓練は危険状態への移行をスムーズに行う訓練であり、バイアスが生じる前に行動を起こすことができるようにする訓練にもなるため、災害発生時の迅速な避難行動をとる上で重要であると考えます。

(M. K.)